資料４

市長懇談会『文化芸術について富田林市長と話そう！』報告

第１回：　８月６日（土）１４時～１６時　　第２回：１０月８日（土）１４時～１６時

１．文化芸術活動の支援

【文化団体同士の連携・協働】

- 皆さん素晴らしい団体ばかりだ。そういうところとコラボもできると良い。富田林市の歴史を寸劇で披露することもできるだろう。
- 皆さんの活動をコラボして、小中高、大学を含めて、どこかで紐付けないと、今は個々に頑張っているが、つながっていない。人の心や活動を結びつけることで実を結ぶ。今は先生が大変な状況であり、助けなければならない。どう紐づけるかだ。紐づけが今はできていない。
- 大阪狭山市で市政３５周年行事があり参加した。舞台で笑顔満開という書を書かれ、狭山音頭では市長も踊り、子どもの合唱などもあった。ロビーでは写真や絵画の展示もあった。お互いに知り合うために、狭山市が企画したが、こうした企画が必要ではないか。

【すばるホールの活用】

- すばるホールは私も残してもらうよう言っているが、場所がないと活動ができない。場所の確保が大事だ。どうやるかは市民の力も必要だ。
- すばるホールは、金剛から行くのにアクセスに困っている。レインボーバスはあるが行くのに時間がかかり、帰ったら夜になる。バスの便のアクセスが悪いので、アクセスも含めたすばるホールの活用方法を考えないといけない。行くのが一日仕事になると足も遠のくだろう。

【公民館の活用】

- 富田林市の公民館の利用について、「市外から来る人が多すぎると困る」と言われる。

【学校の活用】

- 活動場所について、すばるホールや公民館を使ってやっているが、数に限りがあり、さりとて新しくそのような施設を整備することは財源もかかり大変だ。１つの提案として、学校開放をもっと積極的にしていただけると良いのではないか。学校の一角については、警備システムを独立させて、市民が広く使えるようにする仕組みを考えていただくと、もっと活動をする場所の選択肢が増えるだろう。

【図書館の活用】

- 図書館を新しくする計画はないか。河内長野市の図書館は本がたくさんあり、自分で本を探して読むことができるが、富田林市は開架にある本が少なく、読みたい本を依頼する必要がある。自分で本を探すことができれば、新しく読みたい本も見つかるだろう。お金が大変なことは分かっている。

【文化団体の支援】

- 中央公民館の倶楽部に所属しているが、倶楽部の数が減っており、クラブ員も減っている。しかし、高齢者は世間的には増えている。若者にスポットを合わせるとともに、高齢者に対しても文化芸術活動を支援してもらいたい。
- 少子高齢化ということでどこの組織も若い方が入らず、会員が減少し、跡を継ぐ人がいない。
- 文化芸術版として、富田林を元気にする応援団として登録した団体にゴールドステッカーのようなものを与え、その団体については、将来的に発表等の会場の１割減免をするなど、何らかの協力を行ってはどうか。

【市民や企業主体の支援の取組】

- お金は重要だが、市民があれしてほしいではなく、自分たちではこういうことができるというアイデアを出していくことが必要だ。
- 私の小さい頃はマスコミも企業も文化活動をやっていた。メセナが７０～８０年代、企業が頑張っていた時代もあったが、バブルがはじけ、２つの災害があり、文化より環境や SDGs に使われることが多くなった。文化芸術は税金だけではどうしようもないので、それを支えてくれる人が必要だ。富田林市も企業パートナーを見つけることも大事だし、クラウドファンディングもある。

２．人材の育成

【子どもが文化芸術に触れる機会】

- 小学校や幼稚園、保育園含めて、今は携帯で動画やゲームを見て、SNS をしているが、生の舞台に触れることが大事だ。子どもたちが多感な時期に生の舞台に触れることで、大人になってからも忘れられない時間になるということを経験している。富田林市にもいくつかの学校や保育園がある。実体験をして、それが心の成長につながればよい。
- 小学校の頃から感性を付けなければならない。習い事していると、６０歳からしても技術は付くが、感動は身に付かない。
- 今の小学生が関心があるのはスマホと SNS、ツィッター等であり、架空の世界に自分を置いて楽しんでいる。子どもが未来であり、育てていかなければならない。
- これからの子どもたちの感性を育てていくことが大切だ。これだけ世の中にアーティストがいるのであれば、むりくりでも学校に押し込んで、月１回でもいろんなアートに触れさせることで思考や感性も変わるのではないか。
- 子どもも一緒にフェスティバルに参加できるようなシステムだった。静かにしなければならないのではなく、子どもたちが文化に触れる機会をつくることができれば良い。すばるホールもあり、大阪芸大もあるため、すばるホールでも演奏を気軽に聴くことができるような催しがあると良い。
- 今の時代に感じるのは、こちらから何も選択しなくても面白いことがたくさんある。グーグル等で検索すれば、興味のあることを勝手にシステムが提供し、自分から探す必要もない。子どもたちはそれが習慣化しているので、自分たちで描くことができない。それが当たり前になっている子どもたちを変えられるのは、そうではない時代を生きてきた大人だろう。新しい視点や立場で示すことができるのではないか。
- サブカルチャーや SNS について、否定的な意見を持たれている方もいるだろう。危ない側面があり、低俗なサブカルチャーもある。しかし、大阪芸大に通うと、底抜けに明るいライトノベルに救われた方や、SNS で仲間をつくることができて大阪芸大に通っている子もいる。子どもたちにとって世界の１つだ。ですから、子どもたちに手を差し伸べ、関わる際は、SNS やサブカルを否定するだけでなく肯定した上で、新たな視点も出してもらえると、お互いにいい関係で新しいものを産み出せる。

【学校教育における取組】

- 歴史資料をつくり、副読本として、子どもたちに歴史を豊かに教えられないか。河内長野市は中学生向けに取り組んでおり、イラストもきれいで、ふりがな付きだ。
- 学校現場にプロを導入する場合、受け皿の先生が大変だ。先生にまかせっきりになると大変であり、手を挙げる学校を育てる、見つけていく体制を学校長以下、支える仕組みがあるところに予算をつけてもらう。学校巡回授業のようなことを文化庁もしている。プロの合唱団や弦楽の人、声楽の人、富田林市出身の声楽家もいる。音楽の先生だからやるのではなく、学校の体制として、本物の音楽、文化に触れることを行政がバックアップするようにしてもらいたい。これは音楽だけでなく、劇団

もそうだし、学校の部活動、中学校はクラブ活動が盛んであり、ベースにあるものをレベルアップするとともに、学校の教育環境の中に入れて欲しい。学校でプロを呼び、本物に触れて機運情勢を図ってもらいたい。市の文化行政の施策として予算化して、学校に手を挙げてもらえるような施策をしてはどうか。

- 常日頃子どもたちに接して絵を書いているが、習いに来てくれる子は絵に興味を持ってくれているが、そこに至らない子も多い。「地域ボランティアティーチャー」のような形で、地域の人が学校へ教えに行くことができると、勉強以外のことにも興味を持ってもらうことができる。
- 私の息子は学校の活動でブラスバンドの演奏を聞いたときに感銘を受け、今でもブラスバンドを続けている。学校行事の中でそうした芸術に触れる機会について、学校の時間の中でいろんな才能をお持ちの方の活動を知ってもらえる機会があると良い。

【学校以外の子どもたちの受け皿】

- 子どもが文化体験をするのが大事だ。また、継続していくことで素晴らしいプロを輩出できる。小学校でも卒業のときに演劇の芸大の方がきて、卒業記念にライオンキングを演じている学校もある。また「こどもあきんど」として、自分たちでお店を出しているところもある。好きになったらこうしたことができるということ、卒業した後の受け皿として、絵の好きな子は描き続けられるよう、倶楽部以外の拠点があれば、子どもたちがどんどん伸びていき、本物のプロが出てくるのではないか。

【若者の育成】

- 今の２０・３０歳代をどうつないでいくかが大事だ。若い人をどう巻き込んでいくかだ。プロデューサー、プロモーターになる若い人を育てていくことが大事だ。
- アーティストとして経済活動ができるような、その指針になるビジョンにしてほしい。ボランティアという言葉が出てきたが、若い人にボランティアをする余裕はない。若い人は今の不景気で、ダブルワーク、トリプルワークをしながらアート活動をしている。究極の理想はアート活動で生計が立てられればよいが、今の日本では難しい。特に大阪では、芸術というと道楽の延長と言われるが、海外では知的財産として保護されており、その検証や保護を盛り込んでもらいたい。

【多様性の確保】

- 健常者だけでなく障がい者も関わっており、障がい者はとてつもない才能があるかもしれない。みんな平等に広げていってほしい。

３．情報発信

【SNS・インターネットの活用】

- こうした話し合いがあるなら、若い人にも参加してもらうことが大事だ。来てもらえないのは、伝達方法が今の時代に合っていないのではないか。SNS や YouTube、スマホで生きている時代だ。新しく動き出す時代なので、富田林市でこんなことをしていると分かると良い。
- SNS の話があったが、若いアーティストほどご自身のアカウントを作って、１時間単位で発信している。現実世界と SNS に差があり、若いアーティストは売れるなら SNS を活用して、ひとつでも売りたい。現実世界ではそれを補完する流れだろう。

【トップセールスの実施】

- どこの団体も PR をするが、なかなか効果がない。文化団体協議会も年１回、市民文化祭の紙を全戸配布しており、市の協力もいただいているが、市民文化祭の当日は、一握りの方にしか楽しんでいただいていない。そしてまた、その中の一握りの方に参加していただいている。本当はもっと多く

の禍方に知ってもらう必要があるが、１つ１つの団体では力がない。

- 市長がトップから、未来や子供のためにいろいろな活動やサークルを楽しんでいること、そのためにビジョンを策定していることを、市民の皆さんに PR してもらいたい。あんなことをしている、こんなことをしているということについて、多くの方に届けてもらえると、市民も変わってくるのではないか。
- それぞれの団体がメンバーを確保することに非常に困っている。メンバーを集めることと、活動の場所の確保だ。メンバーを集めるための、広報的な強化をお願いしたい。市民文化祭の広報は各団体の枠が小さく、年１回しかないため、広報媒体を拡充してほしい。また、各団体で学校等を通じて広報をする時は、イベントのチラシしか広報させてもらえず、募集というチラシは学校等では配布させてもらえないようだ。そのあたりの制限も緩和してもらえると助かる。各団体の宣伝を後押しする仕組みがあると良い。

【ゆるキャラの活用】

- 友人４人ととっぴーをつかって、市民ならトッピーを借りることができるが、自分たちでトッピーの中に入って富田林市をアピールする活動をしているが、任意でやりたくてやっているだけだが、移動費用もかかるため、今は休止中だ。活動自体は全国の方に知ってもらえるが、任意団体ということで活動が困難になっている。

４．歴史文化の活用

【文化芸術のアーカイブ】

- 本来は資料館があれば保存され、調査もされるが、資料館や博物館が富田林市にはない。資料は欲しい。これが次世代につないでいく絶対条件だ。
- 石川は魚道がない。魚道があれば石川にも鮎が登ってきて、藻を食べるので石川はよくなるのではないか。石川の環境のことを資料として残していきたいと言っている。歴史だけでなく、環境のことも含めて資料を残したい。
- 杉山家が見学できるが、４００円払っても、がらんどうで何もない。石上露子等の歴史資料は他所にあり、これらを早く収集して欲しい。公共のところに寄付したいという人も多い。
- 石上露子さんのことを皆が知る機会が増えると良い。
- 資料館をつくる場合も、まずは学校の図書館を使う、個人的で取り組んでいるところを支援するようなことをしたい。
- 市民のストックについて、市民の志で音楽情報ライブラリができないか。私もまだストックがある。図書館に寄贈しても保管場所がないかもしれない。寄贈して皆さんと一緒に聞ける機会があると、次から次へと寄贈できる。市民が持ち寄ってできる CD ライブラリがあると良い。

【寺内町の活用】

- 富田林市の寺内町は家のつくりはお金をかけてきれいにしている。しかし、もっと寺内町そのものを活用することを考えて欲しい。中を活用するようにすれば良い。

５．その他

【富田林市の文化の確認】

- 富田林市はいろいろなことをしている。どういう活動をしているか、富田林市の全体像を掴むことがビジョンの中でいる。

【ビジョンを検証する仕組みづくり】

- 振興ビジョンがどう進むのか、検証してもらいたい。